

## まえがき

本書は「とにかく人のオナニー事情を知りたい」という衝動から生まれた作品となります。

普段は音声作品の方でおひと方のオナニー事情について深掘りしていますが、今回はひとつのテーマに絞り、多くの方から文章で語っていただくというスタイルとなっております。

今回はオナニーの原点である「初めてのオナニー」についてスポットをあて、5名の女性に「あなたの初めてのオナニー、または記憶にある最初の意図しない自慰について聞かせてください」とお金を払ってお願いし、ご回答いただいたものをまとめたものになります。

いただいた文章にはできるだけ手を加えず、誤字脱字や日本語的に意味が伝わりにくいもの、改行のみ編集し、極力原文のままを掲載しております。

そのため、一部読みづらかったり、変な日本語となっている場合がございますが、それが「個性」であることをご理解いただくと幸いです。

もちろん、編集のくだらない妄想で変なスパイスを足すなんて愚かな行為はしておりません。回答者の女性自らが紡いだ言葉で、自らの「初めてのオナニー」を表現

していただきました。

これを読むことであなたの知識欲を満たし、妄想のネタとなり、オナニーを捗らせる。

本書がその一助になることを願っています。

企画・編集・制作 沢尻

# ケース①友達の家 of 漫画本

## ①プロフィール

名前           みこ  
年齢           当時十七歳  
職業           高校生  
出身地        埼玉県  
趣味           絵を描くこと

## ②報告内容

わたしはもともと、あまり性に関心がなくあまりオナニーやセックスにも興味がありませんでした。しかし、高校生のときに友達の家に行ったときに見た漫画が少しHだったことをきっかけに変わったのを覚えています。

元々絵を描くのが好きで、その漫画の作風が好みだっ

たということもあり、性に関心を持ちました。

そのマンガには女性がオナニーらしいことをしている描写がありました。

オナニーの存在自体は知っていたのですが、急に興味がわいてきて、家に帰ってオナニーを試してみました。

自分の部屋があったのではじめてのオナニーは自室のベットの中でやりました。

ちよつと罪悪感を感じたのを覚えています。

はじめのうちはパンツの上からこするかんじですね。

それでも結構気持ちよかったです。

やはりクリが一番気持ちいいので、クリを重点的に撫でるかんじでした。

その日以降は、お風呂に入ったときにあそこをいじったり、クリをいじったりするようになりました。

そこで直接触った方が敏感で気持ちいいことがわかりました。

はじめてイッたのはシャワーをあそこにあてたときです。

指では感じないような刺激がクリにありめちやくちや気持ちよかったです。

思わず声が出てしまいそうでした。

しばらくクリに押し当てたり、少し離して刺激していくとどんどん気持ちよくなっていった、最後にはイッてしまいました。

それが初めてのイクという感覚でした。

すごく仲のいい友達同士ではオナニーの話などをたまにしていたので「コレ（イクの）が気持ちいいからみんなやってるんだ……。」と妙に納得したのを覚えています。

ふわふわしたような、他では味わえない快感でした。

現在もオナニーをする際はオモチャなど使わずにサクッと終わらせるかんじです。

道具といえばシャワーくらいで、水圧少し強くしたりくらいでしょうか……。

これで十分イクます。

はじめのオナニーは他の人よりもかなり遅いのではないかなとは思っています。

### ③ 当時を振り返った感想

罪悪感とオナニーの気持ちよさで変な気分でした。

（体験版はここまでです）

